

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	第2回 川西市総合計画審議会		
事務局(担当課)	総合政策部政策創造課		
開催日時	令和3年12月21日(火) 午後7時から		
開催場所	川西市役所4階 庁議室		
出席者	委員	新川 達郎、上村 敏之、片山 優子、神谷 牧人、 渋谷 和正、中野 雅文、松浦 龍基、山本 利映	
	その他		
	事務局	越田市長、石田総合政策部長、船木総合政策部 副部長、野田政策創造課長 他課員2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	次ページに記載		
会議結果	別紙会議計画のとおり		

令和3年度第2回川西市総合計画審議会 会議次第

日時：令和3年12月21日(火曜日)
午後7時～

1. 議題

- (1) まちづくりに対する市長の思い【資料1】
- (2) 第5次総合計画のふりかえり
- (3) 第6次総合計画の策定方針(案)について【資料2】
- (4) その他

審 議 経 過

1 開 会

(事務局)

第2回川西市総合計画審議会を開会いたします。

(会長)

本日の出欠につきましては伊藤委員、水野委員がご欠席と伺っております。それでは議事に入ります。まず事務局から今後のスケジュールについて説明をお願いします。

(事務局)

説明

(会長)

ありがとうございます。長丁場となりますが、しっかり議論を進めていければと思います。

まずは、今年度の中に総合計画の基本的な考え方や枠組みについて議論いただきたいということでした。そして、令和4年度は基本構想の検討、令和5年度には一定の形にしたいということでご説明をいただきました。

それでは、早速ですが本日の議事に入りたいと思います。前回の審議会の中で神谷委員から「川西市をこういう市にしたい」という想いの部分について、市長の考えを教えてくださいたいという発言をいただきました。審議を行っていく上で、大変重要なことだと思っておりますので、先に越田市長のお話をお伺いし、その後、議論を深めていければと思っております。では、越田市長、よろしくをお願いします。

(市長)

委員のみなさま、今日もお忙しい中ありがとうございます。改めて、私が政治家として、市長としてどのようなことを実現したいかという点について、前回は「多様性」「包摂性」「持続可能性」といったいくつかのキーワードで申しあげましたが、それを少し深掘りした形で、その背景にある考え方などを説明したいと思います。その先のいわゆるまちのかたちについては、ディスカッションする中で言語化し、取り組んでいきたいと思えます。

世の中にたくさんある不条理にしっかりと向き合い、困難を抱える人達にしっかりと寄り添っていきたい。これが、私が政治家としてスタートした大きなきっかけです。私が高校生の時に祖母が寝たきりになりまして、当時は介護保険もなかったため、祖母はいわゆる老人病院の大部屋で、天井を見ながら一生を終えました。もちろん一人ひとりの人生ですから、その最終的な責任は個人でしか負うことはできないのですが、これはあまりにも不条理すぎる、何とかしないといけないという想いが生まれました。

これは寝たきりの問題だけではなく、貧困や障害など一人では抱えることができない、また抱えるべきではないことについて、声を出せない人がいることに対し、しっか

りと向き合い、市民に寄り添い、市民が幸せになるお手伝いをしていくために行政があって、政治がある。このことを公務員としても市役所としても徹底していきたくと私自身は思っております。そういった意味で、まず「不条理に目を向け市民の抱える困難に寄り添う」といったことを1つめのキーワードとして挙げました。課題を解決すると書くべきなのか寄り添うと書くべきなのか、表現については専門家のみなさまにもご協議をいただきたいところですが、答えがないものがたくさんある中で、まず解決するという結果の部分ではなく、しっかりと寄り添っていくという行政としてのスタンスを明確にしていきたいと思っております。

また、そういった声が出せない背景のひとつとして、多様性が認められていないことが大きいのではないかと実感しています。一人ひとり多様な個性が社会に合わせていくのではなく多様性を受け入れる形で社会が変わっていく、こういうところにこそ、政治や行政の役割があるのではないかと考えています。

そもそも、我々は多様で違いがあるからこそ、持続的に発展してきました。同じような性格・能力であるならば、おそらく人類はここまで発展をしなかつたろうと思っております。社会の都合、効率性の観点から人数の多い集団を健常者と呼び、社会のルールをその部分に合わせておりますが、少数であるということをもって問題視されることや、不利益や不条理な目に遭う部分については、社会を動かさないといけないと思っております。そういった意味で、「人々が多様性を認め合って、違いを排除するのではなく受け入れて社会が変わっていく」こういった社会の形を、私は川西市の中で実現していきたいと思っております。これが2つめです。

これらを申し上げた一方で、それがいかに難しいのかということも、私達自身忘れてはいけないとも思っております。経済成長が期待できない中で、大きな財源を背景にした行政サービスを実施することは、難しい状況です。例えば「企業誘致をすれば企業がが増えて税収が増える」、「子育て支援をすれば人が入ってきて税収が増える」というような将来はこうしたらバラ色だということではなく、日本全国で人口が減り社会も高齢化していく中で「まちのあり方」を変えていく。それこそが持続可能な社会の道だと思っております。

特に川西市は、高度経済成長期である昭和30～40年代に増えた人口が、郊外にどんどんまちを広げ、そこに家を買って暮らすという人口増加型の流れを辿りましたが、こういった郊外型住宅都市というのは、人口が減少しているなかで今後変わらざるを得ないと思っております。

現時点でこの問題を受け止め、基本構想や基本計画の中でしっかりと議論をしていきたいと思っております。

話が前後しますが「幸せとは何か」というと、人によって全く違うと思います。例えば私は阪神タイガースのファンですので、今年の前半はとても幸せな毎日を過ごしておりましたが、10月から11月にかけては暗い気持ちに変わってしまいました。ただ政治の力で阪神タイガースを勝たせてもらっても全くおもしろくないですし、私の幸せとジャイアンツファンの幸せは一緒ではありませんので、やはりそこは政治が介入すべきではないところだと思っております。ただ、子どもたちとテレビで野球を見ることが出来る。そういった日常を作っていくということは、政治や行政がお手伝いできるものがあ

るだろうと思っています。

幸せの形というのは多様ですので、これをもって市民を幸せにするというのは、少し傲慢なのではないかと私自身はと思っています。第2次川西市総合戦略を作ったときも議論をしましたが、例えば「起業家支援で市民を幸せにする」と言ったとき、我々は「“前澤さん”を育ててロケットで宇宙に行ってもらおう」ということよりも「本人が何気ない日常の何気ない幸せというものを大切にできるようなまちにしていきたい」とと思っています。最近よく使われている言葉ですが、それを具体化すると「自分の居場所がしっかりあること」だと思っています。出番や役割があって、必要とされる。そういった繋がりの中で、幸せを感じる人が多いと考えています。もちろん自分のペース、一人の時間が大切だという方もおられると思いますので、それが唯一の答えではありませんが、相対的にそういった政策をこれからのまちづくりでは意識していきたいと思っています。

また、その政策について「子ども」からスタートしたいと思っています。この議論をすると高齢の方から「市長は子どものことばかり言っている」というお叱りのお手紙もいただくわけですが、これは別に高齢者がどうでもいいのかということではなく、今後社会を築いていくために、やはり子どもからスタートをしていくことが最も自然なことではないかと思うからです。そして、子どもにとって優しいまちというのは、結果的に多くの方にとって幸せなまちになっていくと思っています。

そもそも社会を運営するために、自治体には国から様々なお金が渡されていますが、その多くは国債です。我々が将来世代に負担をかけながら行政運営をしていることを謙虚に受け止めるならば、やはり現役世代の責任として、子どもたちに良いものを残していかなければいけないと思っています。

また、子どもだけではなく、障害のある方など困難を抱える方に寄り添っていく。あくまでそこをスタートとし、政策として展開をしていきたいと思っています。ここで表現を間違えてしまうと「子ども以外を排除するのではないか」と受け取られかねず、行政としても悩ましいところですが、子どもも高齢者も、働く世代も、障害がある方もない方とも言ってしまうと、まさに何をしたいかが分からないとなりますので、私としては「子ども」というものをキーワードとしてしっかりと伝えていきたいと思っています。

行政が行うべき、担うべき役割は非常に大きいからこそ、私は市長という立場で仕事をしておりますが、一方で川西市というのは私のものではありませんし、市民のみなさん一人ひとりがお客さんではなく、まちづくりを自分ごととして取り組んでいくという意識をしっかりと醸成していくということが必要だと思っています。

市民参加というと、市民自治なのだから市民のご自由という印象で我々も進めていたのではないかと思います。行政としては、市民のみなさんに当事者意識を持っていただくために、まずは参加をする機会、さらにプレイヤーとしても取り組むという部分を支えていくことが必要だと思っています。ですので、行政としては情報公開や説明責任ということが重要になるとともに、あるべき自治の姿を押しつけるのではなく、我々の想いを伝えて、一緒に舞台を作っていくということが重要ではないかと思っています。

特にいま、様々な地域団体、自治会そういったところで担い手不足ということが言わ

れています。地域団体、自治会にも変わっていただかなければいけないところが課題として当然あると思います。ただ、今までは地域から「担い手不足を何とかしてほしい」と行政に要望があったとしても「地域の事情じゃないでしょうか」とだけ返すことは、何か平行線のような状況がありますので、そこをしっかりと橋渡ししていく必要があると思っています。

もちろん地域の方が自分事として主体的にまちづくり、地域に関わっていただくことは、自身の周り住民の方のためにがんばっていただくことですので、それが自治だという議論もあります。そのための人材を育てるということも、我々が主体的に関わっていただかなければいけないことだと思います。

歴史的に見ると、地域のコミュニティを作ろうという動きに対して、行政が地域コミュニティをつくらうとすることは、自治への介入じゃないかというような議論があると、学生の時に授業で聞いた記憶があります。ただこのことは、世代が変わっていく中で、改めて必要になってきたことだと思っています。そういった意味で、自分事にするためには、単に市外から人にたくさん来てください、川西市に住んでくれたらサービスをしますということではなく、川西市に関わりを持っていただいて、誇りというよりも、愛着を持っていただく、川西市を好きになっていただき、川西市を大切に思ってもらうことで、仮に川西市で住んでいる方が仕事の都合などで市外に出られたとしても、何かあると川西市に帰ってきてくれるようになるのではないかと思います。

そういった愛着の部分というものを大切にしていくことは、まさに自治がキーワードになると思います。そこに関連して、自治ということは、自分たちで考え、意思決定に関わると同時に、発言するだけでなくプレイヤーとして活動していただく仕組みが必要だと思っています。

実際、川西市で仕事をされている方以外にも、大阪で仕事をされていた方で仕事をリタイアされ、川西市で地域活動に入っていただいている方もおられますが、多様な能力を持った方々が十分に活躍できる舞台を必ずしも用意できているとは言えないのではないかと思います。

私は、計画を策定し、具体化していく中で、市民が自分で政策を立案し、自分たちでこういう形にできないかという動きが増えるまちを作っていきたいと思っています。

第2次総合戦略で行った無作為抽出にて市民に参加を募集した市民会議のグループでは、その議論を通じて自らNPOを立ち上げ、まちづくりの活動をされているグループもいます。今までさまざまな計画を作ってきましたが、計画を策定したところで市民の参画は止まってしまっていました。そうではなく、計画を作る中で見えてきた課題をどうやって解決していくかを考えるプレイヤーがどんどん増えてくると、まちというのは活性化していくと思っています。

私のこの想いは、叩き台ということで、ぜひみなさんに遠慮なく叩いていただければと思っています。少し長くなりましたが、神谷委員からの宿題の答えと、今回の問題提起ということにしたいと思います。よろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。これから私達が考えていかなければならない重要な課題に

ついてお話をいただきました。この後、事務局より2.第5次総合計画の振り返り、3.第6次総合計画の策定方針について説明をいただき、その後、これからの計画作りの枠組みについて、意見交換を行いたいと考えております。

それでは事務局より、説明をお願いします。

(2) 第5次総合計画のふりかえり

事務局説明

(3) 第6次総合計画の策定方針(案)について

事務局説明

(会長)

ありがとうございました。市民の力を発揮した協働的で持続可能なまちづくり、そしてそれに対応できるような行財政の運営システムというものをつくりあげていく、このあたりが大きな柱だと思いながら事務局の説明を聞いておりました。

それでは、いまの事務局の説明と最初に伺いました市長からの方針を踏まえて、委員のみなさまからご質問やご意見をいただければと思います。特に、策定方針に盛り込んでいくべきだと思うことについて、アイデア出しをする場だとお考えいただき、ご発言をいただければと思います。

それでは、市長へ方針を依頼された神谷委員からお願いいたします。

(神谷委員)

お忙しい中、回答をいただきありがとうございました。市長のお話を聞いた率直な感想ですが、政治家として、経済面や高齢の方への支援という分野はアピールしやすい分野だといわれるなかで、子ども支援を進めていかれるという想いに感動しました。

これからどんなふうに今回の話が広がっていくのかは分かりませんが、先程第5次総合計画の課題として、わかりにくい、伝わっていない、市民との協働などのお話を聞き、いろいろな考えが湧いています。

1つ考えたものとしては、特別市長室のようなものを作られ、2年任期で市民10名などと決めて、集められるのはどうかと思いました。第1回の審議会でも話が出ましたが、これからどのようなプラットフォームを作るかという話です。今後、指標の達成率について、何をどれだけ増やしますとか、何をどれだけやりますという具体的な数値を出していくということは、とても難しいと思いますし、これからの10年~15年の時代がどのように変わっていくかについても、なかなか想像が難しいです。何かの数値ではなく、プラットフォームをどれだけ用意しますというのはどうでしょうか。

私はイノベーター的な人というのは作ろうと思って作れるものではないと思っていますが、ただ、ファシリテーターは育てようと思えば、育つものだと考えています。

どうすれば子どもや高齢者がいきいきと地域で生活し続けることができるか、そのた

めにどんなことが必要か、そのためのプラットフォームをどれだけ用意すべきか、そしてファシリテートできる人材をどう育成していくのか、それは行政がするのか、違うのかという課題はあります。

ただ、私は福祉事業をすすめるなかで、いろいろなところから声をかけていただき、今回のような委員としてお世話になっていますが、肩書きがつくということは、自分の略歴的にはとても大切なことでして、ひとつ略歴がつくことによって、別のところから声をかけていただくことや他のステージで活躍できる機会に繋がっていきます。

報酬ではなく、自分は川西市長から依頼を受けてやっているという誇りがとても大切だと思っています。ですので、市長の印鑑やサインを書いていたいただいた書面をもってお願いしますと言っていただけで、やってもいいという方はいるのではないかと思います。また、市長から特別に任命された方々を広報誌で紹介し、今こんなことに取り組んでいますという情報を周知することが大切ではないかと思います。

(会長)

ありがとうございました。市長の話の中にもありましたが、市民が自分達で自分達の地域や関わりをつくっていく、そして、まちづくりのプレイヤーとなっていくという時に、今のようなプランというのは大きな意味があるかもしれません。ありがとうございました。では次に、山本委員をお願いします。

(山本委員)

ありがとうございます。私は質問です。先程、事務局の説明の中で、総合計画の位置づけが総合戦略の大元にあるということでしたが、これは、いわゆる2年前に作られた第2次総合戦略と同じと考えてよろしいでしょうか。

(会長)

事務局から、もう一度整理をお願いします。

(事務局)

ご質問ありがとうございます。まず、今ここで申しあげた総合戦略というのは、2年前に作成した川西市第2次総合戦略と全く同じものです。次期の総合戦略ということですが、事務局からの説明にもありましたが、市の最上位の計画は総合計画になります。総合戦略は、具体的にどの分野に力を入れていくのかを定めたものだイメージしていただきたいと思います。

(山本委員)

ありがとうございます。総合戦略の方が具体的なイメージということですね。

追加で質問です。総合戦略の策定過程では市民会議の中で、具体的なお話などが出てきていたと記憶しています。総合計画でも、市民会議を計画されているということでしたが市民会議の人選や、総合戦略の時との違い、会議の位置づけなどについて、事務局のお考えをお教えてください。

(会長)

事務局、お願いします。

(事務局)

現在の総合戦略は令和5年度に計画のおわりを迎え、次の総合計画と同じ令和6年度からはじまりを予定しています。ですので、計画を別々に作るのではなく次期の総合計画に総合戦略の要素を盛り込み、一体的に策定したいと考えています。

前回行ったような市民会議、あるいは各地域で行ったタウンミーティング、この要素も次期の総合計画策定にあたっては、より発展させた形で行っていききたいと考えています。

ただ、どのような方をどのような方法で集めたらいいのかということについては、今後もう少し検討を行いたいと思います。これらのことについては、委員の方々にも、ぜひご意見をいただきたいと思っております。

(山本委員)

ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございました。その他、いかがでしょうか。では、中野委員お願いします。

(中野委員)

かつての成長をしていた時代の総合計画というと、潤沢な財源を元に、財源をどのように割り振って、将来の都市像を実現するかというようなところがメインだったと思います。ただ、大きな財源を持って事業を実現していくことが難しくなっていく中で、市としては行政が中心となって動くのではなく、どのような市を作っていくのか、あるいはどういう市を目指すのかという点について市民の力も借りながら、一体的に作っていくことを目指しておられるのだと感じました。

であれば、いかに市民に計画を理解していただくかということ、それから、市民の方にどう参加をしていただくかというようなことをしっかりと議論をしていく必要があると思いました。神谷委員が提案された計画を推進する方を公募していくというような手法について考えていくことが大切だと思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございました。ご提案も含めて、貴重なサジェスチョンをいただきました。その他いかがでしょうか。では、松浦委員お願いします。

(松浦委員)

市長のお話と事務局からのご説明を聞いての感想となりますが、ひとつは神谷委員がおっしゃったプラットフォームという言葉っていうのが、一番すっきりくるような気がしました。

これまでの高度成長期のように、市役所が直接まちづくりに関与していくということが難しいということで、そういうことは放棄しますと、その代わり市民や企業が自由に動けるような仕組みをつくることに注力しますという言い方が市民にはわかりやすいと思います。

おもしろい事例が2つあります。ひとつめは、GIGA スクール構想で実施している学校事務支援員という仕組みについてです。例えば、IT 企業に勤めていた65才以上の方々が、学校のICT機器のサポートをしてくださるというものです。報酬はほとんどなくてもいい、近所に住む小学生に役に立てたらすごく嬉しいという方がいらっしゃいます。そういう方と地元の学校を繋ぐ仕組みを市役所が作れば、市役所が直接人を雇うよりも少ないコストで、地元の方にとってもやりがいのある取組ができると思います。このような活動は、学校にとっても助かるものになります。そのようなプラットフォームが整備できれば本当にいいと思うのです。ただ、変な人が来たらどうしようなど、いろいろな懸念は確かにありますが、そういう仕組みが整えば、非常に政策として有意義なんじゃないかなと思います。

ふたつめは、市内のマンホールの蓋をスマホで撮影して、それを市役所や企業に送るゲームです。市役所としては、劣化したマンホールの情報を集めることができ、職員が直接点検に行く手間が省けます。ニュースでも取り上げられていましたが、インタビューを受けておられた方が、ゲームも楽しいし、賞金がもらえるのも嬉しいけれど、自分が公共の役に立っているのがとても嬉しいとおっしゃっていました。このような仕組みを作ることができれば、マンホールの劣化だけでなく、公園の遊具の破損状況などもより労力をかけずに把握できると思います。地元の方が撮影して送ってくれるアプリなど、いろいろと出てきています。ITを必ず使う必要はありませんが、これからはそういうことに舵をきっていきますということを総合計画で示し、逆に直接投資することは少し抑えますというふうにすれば、説得力は高いのではないかと思います。

別の話にはなりますが、総合計画というものを市民に周知することは、限界にきていると思っています。どれだけ事務局が周知をがんばっても、多分知らない人は知らないと思います。少し割り切って、総合計画の理念が自然と共有できていくといった方向に舵を切られた方がいいと思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございました。参考になる論点をいただきました。いまチャット機能の方に、山本委員からマンホールの取組について案内いただきましたので、また後ほど見ていただければと思います。その他いかがでしょうか。どうぞ、中野委員。

(中野委員)

今の松浦委員の意見に対してです。私も総合計画の冊子の内容をすべて市民に理解していただくことは不可能だと思っています。ただ、市としてどのような方向を向いて、どのようなまちをつくっていかうとしているのか、ということについて市民のみなさんに理解いただくことは、非常に重要なことだと思います。

(会長)

ありがとうございました。どうやって考え方を共有するのか、その方法については私達の知恵の絞りどころかもしれません。その他いかがでしょうか。上村委員どうぞ。

(上村委員)

前回の総合計画をどう反省するのが、重要なポイントだと思っています。60%以上達成できているものが、約4割ということでしたので、トータル的にはほとんど達成ができていないと思いました。これは目標が無謀だったのか、マネジメントがだめだったのか、指標の立て方が間違っていたのか、いろいろな要因があると思われますが、同じことをもう1度繰り返すのか、それともいまアイデアが出ているような新しい総合計画に切り替えるのかということが重要だと思っています。

総合計画は長期の計画ですが、今の時代は、何が起こるか分からない時代です。もう行政側が指標を決めていくような時代ではないかもしれません。個別計画ベースでは、ある程度、指標を定めていくことが必要かもしれませんが、総合計画については、しっかりと数値を決めていくような時代ではないのかもしれません。

ただし、市長から出していただいたキーワードの中でも重要だと思うものについては、市のコンセプトとして掲げる必要があると思います。

コンセプトに合意していただけた人達をどう巻き込んでいくかという、プラットフォームの話ですが、プラットフォームを作るというのは、行政で方針を決めていくということではないと思います。川西市のためにやろうと思ってくれる方々を自由に集めて、意見を聞き、おもしろそうなものについて市が応援をすることがいいと思います。

とはいえ、そうすると施策のバランスが非常に悪くなる可能性もありますし、行政組織がどうあるべきかという、難しい問題を抱える可能性があります。もしかすると、抱えきれないような仕事を抱えることになってしまうかもしれないので、一気に切り替えるのは多分難しいかもしれません。ただし、できそうな範囲から徐々に広げていくようなチャレンジについて、増やしていくことはできるのではないかと考えています。

(会長)

ありがとうございました。大手の業界ではプラットフォーマー型に経済力がシフトしつつあります。ここまでの話を聞かれて他にご意見がいかがでしょうか。神谷委員どうぞ。

(神谷委員)

以前沖縄でおもしろい動きがあったので、ご紹介します。ある保育園の保護者の方が、遊具のペンキの塗装が剥げて、手に刺さって危ないということに気づかれたことから、ボランティアで遊具の塗り直しをされることになりました。作業をするにあたって、誰か手伝ってくれないかと声をかけられたところ5、60名くらいの有志の方が集まられて、無償で保育園の遊具が綺麗になったと聞きました。

前回の審議会が終わった後に、渋谷委員と能勢電鉄の話になりまして、昔はうぐいす色だったと教えていただきました、懐かしいと思う方もおられると思いますので、みんな

なで1台の車両をうぐいす色に塗るなどの取組を行い、人が集まる仕掛けや仕組みを、能勢電鉄さんと一緒にできたらおもしろそうだと思います。

(会長)

ありがとうございました。能勢電鉄はこれからの川西市の未来を考えていくうえで、とても大切な財産だと思っています。どちらかということこれまでは、住宅都市の必然的な付随品のような認識が強かったかもしれませんが、本当に市民のものであるかどうか、これから問われるかもしれません。どうぞ、片山委員お願いします。

(片山委員)

土曜日に市主催のファシリテーター養成講座に参加させていただきました。最初に市長のメッセージがあり、川西市の市民力を上げていきたいという考えからファシリテーター養成講座を開講されたというお話がありました。私が参加した講座は基礎編でしたが、とても勉強になりました。

3時間の講座が14か所で開催され、多くの方が参加されたようです。私が参加した緑台公民館でも60代から80代ぐらいまでの方が参加されていましたが、熱く話し合っておられる姿を拝見し、川西市の市民力はシルバー力じゃないかという気がしました。

今回の講座では、仮想のカーニバルを実施する方法について議論しました。シルバー神輿をしてみよう、グランドゴルフ大会を企画してみようといったアイデアが出ていましたが、川西市全体の活性化として、とても良い話ではいかと考えていました。

もちろん子どもから始めるという市長のお話については、私も普段保育園を運営していますので、本当にそう思うのですが、元気でエネルギーあふれるシルバーさんたちの力というのをどういうふうに活かしていくのかについて、可能性みたいなものを個人的に感じています。

ひとつ質問ですが、市としてこのファシリテーター養成講座を実施された先に、用意されているものはあるのでしょうか。

(会長)

事務局、お願いします。

(市長)

具体的にここということではないですが、今後策定を予定している地域別構想に活用をしていきたいと考えています。地域で話し合いを進めていただく際に、どんどん新しいプレイヤーに入っていただきたいと考えています。

今回、講座に参加していただいた方が中心となり、新たなプレイヤーの方を誘っていただける動きとなることを期待しております。

いま必要ということで、育てた後の次の展開を十分に練れていない状態でスタートしてしまっていることは、行政の弱いところですが、このような協力が得られるのではないかと、こういう舞台があれば、もっと活躍できるのではないかとこの部分については、

ぜひ委員のみなさまからもご意見をいただければと思います。

(会長)

ありがとうございました。上村委員。

(上村委員)

いろいろなエピソードいただきました。ただ、そのエピソードをデータ化していかないといけないと思います。市民力という言葉もよく聞きますが、市民力で一体何が改善できているのかというところが、実はよく分かっていないところです。

可視化していくところが知恵の見せ所だと思いますし、可視化しないと共有できないとも考えています。

いろいろなエピソードがあっても、実はブレイクスルーになっています。どのように指標化していくかが大切です。先程、数値目標をしっかりと決めすぎることはあまり良くないのではないかという話をしましたが、ある程度数値として判断できるものを置いておかないとマネジメントができません。

いまとても良い話がでていますが、一方で管理型の話もしていかなければいけないという視点もお伝えさせてください。以上です。

(会長)

ありがとうございました。具体的な施策を進めていくうえでは、誰にでもわかる形にならなければいけませんので、ある程度の数値化も必要だということは、その通りだと思いつながら聞いていました。ぜひそういう観点で、指標や目標設定などの課題についても考えてみていただきたいと思いました。どうぞ神谷委員。

(神谷委員)

今の上村委員の発言を受けてです。私もいろいろと司会やファシリテーターをしますが、目的が別の人達が集まった会議をファシリテートするということは、とても困難です。やはり、経済、ビジネス、起業、子育てなどの目的があれば、そこに向けていろいろな人達がおられても、目的は一緒なのですが、なんと云えばいいかが難しいですが、自治会の縛りということが、良い悪いという論点はおいて、少し離れていかないといけないと思います。目的が違う方々をまとめていくということは、ゴールがどこになるのか、それこそ何をして達成とするのが難しいです。

行政がお願いしやすいのは自治会一体管理で進めていくということだと思いますが、目的が一致していないと難しいと思います。地域型のコミュニティというのも、多世代間の交流などをする際は、当然必要ですが、それとは別に目的型のコミュニティも大切だと思います。

(会長)

ありがとうございました。川西市は地縁型もありますが、もう一方では志を持った人達の活動も活発なところです。両方が活発になっていく必要がありますが、それぞれに

やはり性質が違いますので、どう伸ばしていってもらえるのか、どんな環境あるいはファシリテーションが必要なのかを考えていく必要があるかもしれません。

本日は市長から子どもをキーワードとして、これからのまちを考えるという話をいただきました。子どもというのは今の社会全体でいうと、重要な価値、重要な政策の対象にもなっています。ただ一方で高齢社会あるいは低成長経済といったような観点からすると少し優先順位は下がる対象でもあります。

子どもたちの学びやその成長こそが、まちを持続可能にしていく可能性ではないかという市長の気持ちが伝わりました。川西市で成長した子どもたちが、いつか市に大きく貢献される可能性があるということに当然意味していると受け取っています。将来への可能性を拓くという意味で、子どもに着目をするということに納得して聞いていました。

では、他にご意見いかがでしょうか。渋谷委員お願いします。

(渋谷委員)

先程の子どもについてですが、早い時期から子どもたちが地域と関われる環境を作ることによって、地域のために貢献したいと考える子たちが育まれるのではないかと思います。川西市には、企画のできる方々がたくさんおられると思いますので、そういう企画の量を増やしていくことが大切だと思います。

また、川西市自体の就業率はちょっとあまり高くないということを知ったことがあります。例えばキッザニアのような就職の体験会というものを早い段階から取り入れることによって、就職に対してのミスマッチというものをなくすことができ、川西市での住みやすい生活を作っていけるのではないかと思います。これらは、持続可能という視点においてひとつポイントになってくると考えます。また、子たちがアイデアを発信できる環境というのを作っていけると、楽しいまちになるのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございました。他にご意見いかがでしょうか。

(松浦委員)

資料2の「 -3 重点事項や優先順位が明確で、戦略性を持った計画であること」は非常に重要だなと感じています。市長からご説明いただいた子どもからスタートするという言い方もそうですが、逆の言い方をすると子どもを優先して、高齢者は後回しなのかというご意見はあると思います。ですから、あえて子どもからという言い方をされていると思いますが批判を覚悟で、優先順位をつけることは、総合計画として非常に大事だと思います。

また、事務局から提示された資料の中で、「 - 2 の PDCA サイクルを確立する、EBPM で証拠に基づく政策立案をする」「 DX の推進」などは市民に直接影響しないため、総合計画でアピールしても、市民には響かない分野ではありますが、行政はプラットフォーム支援にシフトしますという話であれば、指標や進行管理、個別計画の連動についても、データ化することができると思います。

ただ指標は、設定もデータの測定も難しいですし、結果を得るのも手間、労力、コストがかかるもののため、やる意味があるのかみたいな話も聞いていますので、データを取るためにも、ICT化していくということは非常に効率的ではないかと思います。少し話がいろいろな方向にいきましたが、これまでの意見をまとめるとこういう意味ではないかと思い、整理してお話しました。

(会長)

ありがとうございます。優先順位をつけることの大切さ、多くの人に納得していただいたうえで市政を進めるために客観的な指標を示すことで、市民にも進行管理的部分について関心を持ってもらえるのではないかというお話でした。ただ、なかなか実際には実現することは難しいため、DXを活用していくべきではないかというお話をいただきました。ぜひそういうストーリーをこの計画の中でも実現していければと思いながら聞いていました。ありがとうございました。その他いかがでしょうか。はい。上村委員。

(上村委員)

今の松浦委員の意見に賛成です。ある程度、大切だと思われる指標を作っておいて、達成手段についてはプラットフォームの公募がいいと思います。もちろん基本的な事業についても展開するけれど、市民公募でおもしろそうな事業があれば、どんどん採用しますとすれば、おもしろいことができるのではないかと思いました。

また子どもの話については、私もすばらしい戦略だと思っています。やはりどうしても高齢者に寄ってしまう政治的状况にある方々も多いので、子ども重視ということ掲げられることはすばらしいことです。

ただ、兵庫県内の大学生で県内に就職したいと思っている学生の割合が令和元年度は65%ですが、実際県内に就職する大学生は30%以内です。約35%の学生が県内で就職できず、東京もしくは大阪で就職をしています。これは兵庫県の問題だと思っています。子どもを育てられるけれど、出て行ってしまいうという根本的な問題を川西市としてどう考えるのかについては、考えないといけない問題です。働く場所がないという問題をクリアしていかないといけないことは、長期的な課題だと思っています。

(会長)

ありがとうございました。神谷委員お願いします。

(神谷委員)

資料集を見ていると、20代の方の転出は増加、30代は転入が増加しているという結果が示されていました。やはり、仕事を求めて1回市外へ出ていくことは仕方ないのかなと思いました。以前、別の集まりに参加した際に、行政は民間の力を活用したいと言っているけれど、安く済まそうとしているだけではないかという意見が出ていました。

私は、民間の力というのは行政では難しいような付加価値をつけたサービスを行えることだと思っています。少し、特異な意見に聞こえるかもしれませんが、民間の力を借

りるということは、そのための費用をしっかりと払っていただく代わりにサービスを得るということではないかと思います。行政はここまでしかできないけれど、指定管理にすることによってより良くなるということです。

公民館などの運営についても、課題や特徴は地域ごとによって違うと思います。そう考えると、いろいろと外の世界も見てきた30代40代が地元に戻ってきて関わると良いと思いました。

ファシリテーター養成講座についても、ゆくゆくはNPOを立ち上げ公民館を管理するための人を育てるために講座を開くのであれば、ステージが繋がっていき、自治になっていくと思います。公民館に限らず、公的なサービスの接客のレベルについて不満を感じている人は多いと思います。例えば、今回養成講座に参加された片山委員が公民館を運営されるとなれば、みんなの意見を聞きながら運営するということができるのではないかと思います。それが行政以外の力だと思います。

(会長)

ありがとうございました。どうぞ上村委員。

(上村委員)

神谷委員が思われた通り、学生が1度県外に出るのは諦めた方がいいと思っています。結局、本社が東京都や大阪府なので、最後は出てしまうことになると思います。ただ、やはり子どもの時に得た思い出というのがあると、自身が子どもを持ったときに地元に戻りたいと思う子どもも多いと思います。そう思ったときに、受け入れられる地域にどうしていくのかがとても大切だと思います。

私も1回東京に住んでいますが、他の地域へ住んだからこそ今はここが1番良いと思えるのだと思います。1回地域から出るからこそ戻ってくるということになりますので、そのために子ども達に対してきっちり教育をできる、もしくは育てられる川西市になるといいのではないかと思います。

(会長)

はい、ありがとうございました。はい、どうぞ市長。

(市長)

私も県会議員をしていたため、兵庫県の課題について議論をしていました。川西市特有の課題についてですが、就業者数はもう県内よりも大阪府に出ている方が多いということが前提にあるまちだと思っています。兵庫県だけでなく、大阪府との関係も考えなければならぬまちだと思っています。県会議員をしていた時は、特に矛盾を感じながら仕事をしていました。

ただ、上村委員がお話されたとおり、学生が県外に出ていくのをいかに止めるのかという課題については、当時の産業労働部長と何回もお話しましたが、どうしても行政はこんなに良い企業があるのにわかってくれないという切り口で考えてしまうのですが、私はそういう発想だから学生が出ていってしまうという考えを持っており、議論になっ

たことがあります。

川西市に大手メディアがあるわけではないので、川西市で全ての舞台を用意できるわけではありません。夢をかなえるために市外へ出ていくことについては、全力で応援しようということです。つまり、市外で頑張っておられる方であっても、同じ川西市民としてずっと応援していきたいということです。応援するからこそ、何かあったときやりタイアをした時に戻ってきてくれるなどの繋がりがあると考えています。所縁のあった方と関わり続けるということ、まちづくりの中でしていきたいという想いがあります。

今回の議論の中で厳しいご指摘として、指標の達成状況についてご意見をいただいております。指標を毎年チェックしているということから、設定した指標は変えられないという仕組みにしてしまっているということや、多い指標を管理するということが、今の世の中にあっていないのではないかと思いました。また8年間の中で、途中で変えなければいけないということは当然出てくると思っておりますが、これまでは、変えるということを前提としていないため、現実として総合計画や個別計画に載っていないものが突然事業化されていることもあります。

計画に基づいているという根拠がない施策が増えてくるということは、当然計画が形骸化しますし、目標の管理ができなくなるという課題があります。計画の大きな方向性については変えられないと思いますが、部分的に修正し続けるという仕組みが必要だという想いがあります。

最後になりますが、もうひとつ悩んでいることとして、幸せとかという言葉がまさに我々の仕事の本質ですが、その言葉というのは自治体の名前が変わっても通用する言葉だということです。ただ、行政一般はそれが通常ですので、そこから外すということは難しいのですが、ただそれだと、川西市ではなくても、私ではなくてもいい言葉になってしまうのではないかと思います。私もまだ答えがない状況で、我々も悩み続けるところですが、またご意見をいただければと思っております。

(会長)

ありがとうございました。良いアイデアと良い刺激をいただいておりますので、ぜひ、事務局もご参加ください。とは言いましたが、議論が熱中し、時間が経ってきました。

最初に事務局からお話がありましたが、総合計画を市民の計画にできるかということについて、委員のみなさま方のお考えについて、ご意見をいただければと思います。では、山本委員お願いします。

(山本委員)

今までの話でも出てきていた NPO、ボランティア団体などの方の意見の吸い上げについては、積極的にやっていくべきだと思っております。先程指標が難しいという話もありましたが、川西市は活動的な方々や、地道に活動してきているボランティア団体や NPO の方がいますが、繋がりが持てない部分があるのもったいないと思っております。前回、総合戦略を策定するときに実施された市民会議やタウンミーティングは、無作為で選ばれた方が参加されたというところもあったので、普通だと手をあげないような方

も入られていたというところが良いところだったと思っています。

次の市民会議でも、そういう属性の方々にもぜひ入っていただくとともに、公益法人やNPOに入っていただくことが大切だと思いました。

(会長)

ありがとうございました。明確にミッションを持って活動しておられるNPO等と地域で活動しておられる方々は、お互いに相手が何をされているか知らない状況だと思います。山本委員がおっしゃられたとおり、情報共有する場を設け、垣根を低くしていくことが、双方の活動を活発にしてくことになると思いますし、見える化をすると指標になるかもしれません。片山委員はいかがですか。

(片山委員)

市民力の数値化、可視化ということについては、私自身が一番苦手なこととして、それは、どんな数字だろうとずっと考えていました。他市と比べるものなのかとも思いましたが、少し違う気がします。まだ、全然答えが出ていません。

(会長)

評価の問題は本当に難しい課題です。今後、一緒に考えていきたいと考えております。中野委員はいかがですか。

(中野委員)

総合計画となると、どうしても総花的な話になってしまいましたが、今回は事務局から優先順位をつけるということを明確に示していただいています。また、市長としても政策は子どもからスタートさせるということを明確に出しておられることが、第5次と根本的に違うところではないかと思います。

子どもから政策をすすめるということで、子どもが幸せな川西市という表現が一番良いのではないかとはい思いました。また、子どもが幸せになるということは、今住んでおられる方だけではなく転入の可能性もあると思います。子育て世帯は、働く世代ともいえるため、ある程度財政が豊かになると予想されます。市の財政が豊かになれば、高齢者の方に対しても財源を振り分けることができ、良い循環になっていくのではないかと考えています。明石市や箕面市はそういった方向に力を入れておられるというようなところがありますが、川西市も立地がいいということのを売りにして、うまく形づくることのでければ、子育てするなら川西市となる可能性もあると思いました。

(会長)

ありがとうございました。どうぞ、神谷委員。

(神谷委員)

子どもに力を入れるということは、お金をかけることだけではないと思っています。私は子どもたちに、いろいろな選択肢や生き方があるといった知識を知ってもらうこと

が、教育だと思っています。お金をかけるだけが教育ではなく、いろいろと活躍している人達が一緒に子ども達に多様性というものを教えてほしいと思っています。みんなで一緒に子育てをしてほしいと思っています。その環境で育った子どもたちは、いろいろな人を受け入れられる価値観を持った人になると思います。その子ども達が、川西市を担ってくれるのです。ただ、お金を使う優先順位という言い方をしてしまうと、批判が来てしまいますが、子どもに力をつけるということはお金だけの話ではないということの説明し、みんなの力が必要だということの理解を得て、力を借りるような仕組みを作ることができればと思っています。

(会長)

ありがとうございました。ここまで聞かれて、渋谷委員はいかがですか。

(渋谷委員)

私も、本日の議論を聞き、川西市がスタートできるまちであるという想いをもちました。それが何かというと、声の出せない方や子ども、また川西市は20代30代40代の方で、すごく元気な方も多いと思うため、そのような方々が発進できるスタートの場というようなところを創れるのではないかという未来をととても楽しみにしています。

(会長)

そうですね、みんなが活躍する環境の中で、子どもたちが育っていくというようなイメージがつかれるといいですね。松浦委員はいかがですか。

(松浦委員)

みなさんのご意見と全く同じ感想です。最後に一言申し上げるとすると、やはり何かを選ぶと、何かを捨てざるを得ないというのがあります。捨てるという表現については、総合計画や行政ではできないと理解していますが、優先順位つけるという政策も市によっては必要だと思います。逆に、何も切り捨てません、全部優先しますという総合計画ほど信頼できないものはないかなと思いました。

(会長)

ありがとうございました。上村委員、お願いします。

(上村委員)

今日の話聞き、「チャンスがあるまち」「チャレンジができるまち」というイメージが大切だと思いました。川西市に来たらチャンスがある、チャレンジできるというような、キャッチフレーズなものをつくり、どう発信するか、どう共有するかが大切だと思いました。

(会長)

ありがとうございました。幸せを指標化、指数化するときには、何が幸せなのか、

何が大きく左右しているのかという、いろいろと調査がありますが、その中のひとつに未来に対する希望、将来への期待ということが大きい人達ほど、現状はどんな状態であれ幸せの度合いというのが常に高いと言われている考え方があります。

さて、将来に期待が持てる、未来に希望が持てる川西市になれるかが問われているのかもしれませんが。では、本日は、このあたりでご容赦いただきたいと思います。では、事務局から事務連絡等ありましたら、よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。第3回は2月17日(木)の午後7時から、Webでの開催を予定しております。今回の議事録につきましては、後日お送りいたしますので、ご確認をお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。本日は、長い時間でしたが、熱心に議論に参加いただきまして、ありがとうございました。参考になることがあったのではないかと考えております。進行を事務局にお返しします。

4. 閉会

(事務局)

それでは本日の会議は終了とさせていただきます。ありがとうございました。